



専修大学社会体育研究所公開シンポジウム 2012

スポーツの力を考える 「スポーツを通じた社会開発」

2012年10月29日(月)

会場：専修大学生田キャンパス10号館10301教室



挨拶

佐藤 雅幸

(専修大学教授／社会体育研究所長)

まず、シンポジウム開催に際しまして、ご協力いただき誠にありがとうございます。このスポーツ・レガシーシリーズはこれで第5回となります。昨年は「スポーツ科学とその限界」というテーマでしたが、今回は「スポーツの力を考える」というテーマとしました。その理由としては、2011年にスポーツ振興法が50年ぶりに改定されまして、スポーツ基本法が制定されたことです。また、昨年の3月11日の東日本大震災によってわが国は多大な被害を受けたわけですが、この被災地における復興過程において、スポーツが果たす役割はないか、これを考えたかったのです。

今年のロンドンオリンピックでは、史上最多38個というメダルを獲得しました。その獲得は、国民に対し夢と希望を与えました。スポーツの持つ力が復興の原動力となることも実感しました。スポーツが夢や感動を与えることは言うまでもありません。さらに、一步踏み込んでスポーツの力、社会的な価値をとらえ、レガシーとしていくことは大きな価値があると思っています。今回はスポーツ基本法の制定、スポーツ立国戦略の策定に尽力されました鈴木寛元文部科学副大臣をお迎えし、基調講演をいただきます。また、社会学の専門家であり、本学の大屋根教授、そして、

ロンドンオリンピックレスリングで大活躍されました、伊調選手、米満選手、松本選手と素晴らしいゲストを迎えています。ゲストと皆さんで考え、意義あるシンポジウムを行ってきたいと思います。よろしくお願いいたします。

当シンポジウムに第1回からご協力いただいております大塚製薬株式会社様にも重ねて御礼申し上げます。簡単ではございますが、ご挨拶にかえさせていただきます。

——つづいて学校法人専修大学理事、専修大学商学部内野学部長にご挨拶いただきます。

挨拶

内野 明

(専修大学商学部長)

皆さんこんにちは。私が出て挨拶するよりも早くプログラムが始まらないかとおもっていると思いますが、一言だけご挨拶させていただきます。こちらの公開シンポジウムは今年で5回目ということですが、私が学部長になって以降、非常に興味深いプログラムになっています。実際、なかなか広報ができなくて学生が集まらない、と思っていたのですが、今年はプログラムが充実しすぎていて、学生に呼び掛けると授業をさぼって出席してしまうと思うくらいの内容です。せっかくの機会ですので、皆さんの話をよく聞いてほしいと思います。来年度以降も、このようなプログラムを開いてくれると期待しています。それではプログラムの進行におまかせしたいと思います。

——それではプログラムに入ります。

元文部科学副大臣、鈴木寛先生です。続きまして、大屋根淳教授です。さらに、オリンピック3連覇女子レスリング、伊調馨選手です。24年ぶりの男子レスリング金メダル、米満達弘選手です。男子レスリング・グレコローマンスタイル12年ぶり銅メダリスト、松本隆太郎選手です。それでは基調講演の方よろしくお願いいたします。



佐藤 雅幸



内野 明